



中北の地域社会 (community)の心の交流 (communication)をめざします

礼に始まり礼に終わる

中北教育事務所

副所長 小林 茂晴



明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、新たな気持ちで新しい年を迎えられたことと存じます。日頃より中北教育事務所の様々な事業に対しまして、ご理解とご協力をいただいておりますことに、心より感謝申し上げます。

さて、2022年の世界や日本での出来事を振り返りますと、ウクライナとロシアの紛争や引き続きコロナ禍、円安・物価高・・・、先が見通せない暗いニュースが数多くありました。そんな中で、年末のサッカーワールドカップでの日本代表の活躍やそれにまつわる様々な話題が、暗い気持ちを明るく照らし出し元気が湧いてくるニュースであったと強く感じているところです。それは、ただ試合の勝敗だけでなく、チーム一丸となって粘り強く戦う姿や応援するサポーターの姿に、日本人が受け継いできている良さを感じたからです。

「礼に始まり礼に終わる」という言葉があります。元来剣道や柔道などの武道の基本として大事にされている言葉ですが、私はこの言葉の意味を、勝敗を超えて、自分を磨いてくれる相手や関わる皆様、様々な物事に感謝することだと教えていただきました。ワールドカップ日本代表は、チームで結束する姿や対戦国と関係する皆様へのリスペクトなど、その精神を随所に感じさせてくれました。

「礼」に関わる話として、日本独自の文化である将棋の世界には、三つの礼があるそうです。一つは対局の初めの礼、次は終わりの礼ですが、もう一つは「負けの宣言の礼」となるそうです。これは、勝てないと判断した時に敗北を認めて相手に負けましたと伝えることだそうです。幼い頃友人と将棋を指し、「負けました」の一言が悔しくてなかなか言えなかったことを思い出します。



これらの「礼」に共通していることは、「謙虚」や「感謝」であり、そして「学び続ける心」であると思います。新しい年を迎え、初詣で深く頭を下げながら、このように素晴らしい考え方や習慣を受けついでいる私たちの良さを大切にしながら、謙虚に日々学び続けたいと強く心に誓ったところです。

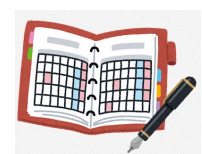
本年が皆様にとって夢と希望に満ちた素晴らしい年になることを祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

×切せまる！

スケジュール空いていますか？

第2回中北地区地域教育推進連絡協議会（1月26日）のおしらせ

リズムオブラブ主宰の渡辺光美さんからの活動報告、
公認心理士 内藤雅人さんによる、愛着形成にかかわる講演会です。
1月18日が申込締め切り日です。（まだ間に合います！）
みなさまのご参加をお待ちしています。



ものづくり魅力発見！

山梨県産業労働部産業人材育成課

南アルプス市立落合小学校・茂呂製作所

県では、将来の本県のものづくり産業を担う人材を育成することを目的に、令和元年度から小中学生を対象に工場見学や体験学習を行う「山梨のものづくり魅力発見事業」を実施しています。12月1日には、南アルプス市立落合小学校4・5年生が、茂呂製作所（韮崎市）を見学しました。

スマートグラスを使ったオンライン機械修理の話から、工場内で実際にスマートグラスをつけてどんなやりとりができるのかを体験しました。そのほか、金属の塊をドリルで削る体験。素材により、力のいれ具合が違うことを実感したようです。また、金属でできたペン立てに金型でイニシャルを刻印する体験では、正確に打てるように指の先まで緊張している様子でした。社員の皆さんの熱心でわかりやすい説明に、大きな歓声が工場のあちらこちらで響いていました。



「日本は資源のない国です。鉄の塊を何にかえるのか。新しい価値を創るのが製造業です。価値を創る人になってほしいです。」（茂呂哲也社長）

「イニシャルを打つときに、まっすぐにおろしてカナツチを打つのがとても楽しかったです。」

「また体験してみたい。また行ってみたい。」

「楽しかった。ものづくりをしてみたいと思った。」

「工場に行ったとき、本当はものづくりが苦手だったけど、見学したらやってみたいと思うようになりました。」（参加した小学生）

「山梨県には、高い技術を持った製造業の企業が多くあります。小中学生にとっては、日常では見ることのできない製造現場を見学でき、地元企業の魅力を知り、将来の山梨への就職意識を



高めることができます。企業にとっては、地域貢献の一環として高い技術力を持つ製造業の現場をPRすることも可能です。」（県担当者）



おみやげの手作りペン立て。自分でイニシャルを刻んだペン立てを見ながら、将来、高い技術力を持つ山梨のものづくり産業を担う人材として活躍する児童も出てくることでしょう。

甲斐より始めよ

第53回関東甲信越静社会教育研究大会山梨大会

令和4年11月10・11日の2日間にわたって、第53回関東甲信越静社会教育研究大会山梨大会が開催されました。1日目の全体会では、甲府市立甲府商業高等学校ソングリーダー部の歓迎アトラクションで会場が盛り上がりを見せた後、元ソフトボール女子日本代表監督の宇津木妙子氏の記念講演、社会的包摂に向けた社会教育の果たす役割を考えるシンポジウムが行われました。

2日目は5つの分科会に分かれ、山梨県からは、地元の高校生と社会教育委員の意見交換により地域課題や生活について考えを深めている甲州市の取り組みが発表されました。

新型コロナウイルス感染症の状況から参集できるのかどうか、直前まで気をもみましたが、近隣都県から多くの社会教育関係者の皆さまにお越しいただきました。

この2日間での語り合いが、社会の基盤となる、人づくり・つながりづくり・地域づくりの充実につながることを確信できる大会でした。



地域話題を取り上げた月刊ミニコミ紙「わたなべしんぶんてん・にゅうす」の発行、また自ら学校などへ出向いての新聞を活用した講座を開くなど、新聞店経営者だけにとどまらない活躍の渡辺次朗さん。このたび日本新聞協会「地域貢献賞」を受賞されました。実は、密かに地域情報紙の「ライバル」として毎号楽しみにしていたのです。渡辺新聞店社長 渡辺次朗さんに会いに行きました。

－「わたなべしんぶんてん・にゅうす」見てますよ。

2005年4月創刊で、この12月で213号ですね。地方紙に載らなくても、サークル活動、ボランティア、子どもの活躍、新規事業を立ち上げた人など、地域で頑張っている人を見つけて、その人たちの持つエネルギーを載せたいです。



－学校などでの新聞出前講座も行っていますね。

もう10年以上になるかなあ、新聞スクラップ講座では、新聞のレイアウト、見出しなどから、新聞の読み方を説明したり、複数の新聞の同じ話題の記事を使って、読み比べをやったり。新聞の持つ形は、わかりやすく伝えられる形をしているのが特徴。修学旅行記や学園祭新聞、卒業文集などへ応用することで、新聞の持つ面白さが伝わるといいよね。

－今は何でもネットで、新聞を読まない子どもも多くなっている…。新聞の持つ力って何でしょう。

ネットは、深いけど狭い視野になってしまっている。新聞は社会の縮図だから、関心のある記事一つから広くたくさんを知ることができる。講座で出会う子どもたちは、結構新聞を読めるんですよ。発想の広さや違う視点から何かを知ることを楽しんでいる。ウェビングして新しいことを知る、アイデアにつながる。知らなかった職業を知って、将来を考える子どもも出てくるといいよね。

新聞で、地域をつなぎ、人をつなぐ渡辺さん。今月も新たな発見が「わたなべしんぶんてん・にゅうす」に掲載されます。また、渡辺さんの新聞出前授業も受付中です。ぜひご相談を。（渡辺新聞店 055-282-2477）

ふれあい学校訪問で感じたこと

中北教育事務所 地域学力向上推進幹 鈴木和幸

本年度も、中巨摩・北巨摩・甲府の小中学校に2回のふれあい学校訪問を行いました。学校訪問を通して感じたことは、各校とも児童生徒のことを中心に考え、授業改善や学力向上に積極的に努めていることです。訪問にて、校長先生方の話や参観授業から学力向上に関して多くの好事例がありました。具体的には

- 授業で「めあて」を設定する際、児童生徒の解決すべき問題を見いださせ、教師の「ねらい」と児童生徒の「めあて」を合致させた授業をしている。
- まとめの際には、本時のキーワードを児童生徒に出させて、「めあて」と対応させて、まとめの文を作らせている。
- 振り返りの時間を授業の中で確保して、児童生徒に書かせ、それを学級文化としている。
- 言語活動は、ただ隣同士で話し合わせるのではなく、話し合う内容や意図を伝えて活動させている。
- 低学年から学習規律、特に授業中のよい姿勢を定着させている。
- 低学年から読書の時間を確保したり、読み聞かせをしたりして、「読書好き」な児童生徒を育てている。（全国学力・学習調査の結果分析から、読書が好きな児童生徒は学力が高い傾向にあります。）

などです。また、働き方改革については、特に印象に残った方策として

- ボトムアップ式に教職員から学校の課題を出し、解決策を教職員と管理職が練り、具体的に実行する。

です。各校におかれましては、引き続き、取組を進めていただくとともに、地域の方々や学校関係者におかれましては、学校の支援等をよろしくお願いいたします。

#中北バトン

様々な立場から、子どもたちへの思い、地域への思いを語っていただきます。
今回は、甲府市小中学校PTA連合会事務局長 服部順子様です。

お節介オバさんここに在り

私には大学3年を筆頭に高校3年、中学3年の子どもがいます。末の子が小学校を卒業してから、地域の下校時の見守りボランティアに入れていただきました。今まで我が子がお世話になったのでこれからは私がお返しする番かなと。月に1~2度、旗を持って交通量が多い交差点に立ちます。そこを通る子ども達に「こんにちは」と言うと殆どの子はそっぽを向きます。多い時で50人程が通りますが、返事をしてくれる子は4~5人でしょうか。自ら挨拶してくれる子は1~2人です。

先日、ある方の講演を聞く機会がありました。その中で「挨拶が一番の防犯になる」という話があり、何年も前に息子が児童会長に立候補した時の演説の内容を思い出しました。

「泥棒が、泥棒するのを諦める一番の理由は道で挨拶された時だから挨拶をしよう」という事を。だから、お節介は百も承知で見守り当番の時には「こんにちは」と言い続けます。挨拶を返してくれた子には「挨拶できてえらいね」の言葉も忘れずに。そう、私は自他共に認めるお節介オバさんなんです！（我が子達からはもちろん苦い顔をされます…）

私は甲府市P連に属していますが、そもそもこの会はお節介なお父さんお母さんの集まりだと思います。子ども達の為に何かしよう！学校が良くなる為に何かしよう！コロナ禍だからって何もできない訳じゃない！子ども達の為に出来ることは何だろう？と。

今年度、甲府市P連のスローガンは「温故創新」。古き良き習慣風習は守りつつ、しかし変化が著しい現代に沿った新しい創造力を持ち、学びを止めない。未来を担う子ども達が大きな夢を持てるように、今、大人が止まってはいけない！という想いで活動しています。

外で子どもが困った時、「いつも挨拶してくるオジさんオバさんがいるから助けてもらおう。」

子ども達に、地域の大人のことをこんな風に思ってもらえたらなんて嬉しいことでしょう。子ども達が安心して過ごせる地域は、全ての世代が安心して過ごせると思います。

みんなぜひお節介な大人になりましょう！

エネルギー全開！

山梨ことぶき勸学院中北教室

山梨ことぶき勸学院の最大行事「勸学院祭」の発表に向け準備を進めていた矢先、中止が決まり、どうなるのかと気をもみましたが、「自分たちだけのお楽しみだけで終わっては残念。」と、講師の先生方から、発表の機会をいただきました。



11月6日は、東京エレクトロン荏崎文化ホールにて、2年生有志が武田節を披露しました。多くの舞踊関係者が集う会での発表でしたが、力強い演舞に会場から拍手が湧きました。また11月19日には、南アルプス市若草生涯学習センターで行われた「健康生きがい講演会」で、1年生有志がトーンチャイムの演奏を披露しました。心に沁み入る柔らかな音色に、心安らぐひとときを過ごしました。発表が終わり、お互いをたたえ合う姿が見られ、充実した表情があふれる一日でした。

様々な場面で活躍する勸学院生。あなたも山梨ことぶき勸学院の来年度の入学生として、人生100年時代と一緒に楽しみましょう。



山梨ことぶき勸学院では、生涯学習のニーズに対応し、令和5年度の学生を募集します。

- 修業年限：2年
 - 講座日：原則火曜日（半日）
 - 費用：基本学習費16,000円
 - 出願期間 令和5年2月1日（水）～（定員になり次第締め切り）
 - 入学案内・募集要項：令和5年1月下旬頃から、各市町村の教育委員会や教育事務所などで配布予定
- お問い合わせ先 山梨ことぶき勸学院 電話 055-233-6947